「日々の理科」（第 3137 号） 2023, -3, -9

「フクロウ巣箱にフクロウ来る！（1）」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス＆エデュケーション研究所 研究員

田中　千尋　Chihiro Tanaka

北軽井沢にある私の山荘は、建物は築約 50 年で、良い言葉で言えば「レトロ」、悪く言えば「古屋」である。しかし敷地だけは数百坪あって、特に裏庭の森が広い。手作りのアスレチックも設置してあるが、目玉は「フクロウ用の巣箱」である。

裏庭の森はカラマツとアカマツが多い。巣箱は〇の位置、地上高約 4m に設置してある。フクロウの巣箱としては少し低いのだが、私が脚立と滑車を使って一人で設置したので、この高さが限界だった。

巣箱はフクロウ専用のサイズに、専門家に作ってもらったものだ。天井には赤外線カメラが設置させており、母屋のネットワークサーバーに 2 データが送られてくる。映像はモデムを介して、インターネット経由で、365 日 24 時間アーカイブされている。

夜間でも巣箱出入口の様子も観察できるように、地上にライトを設置し、母屋からカメラで監視している。

過去には実際にフクロウの営巣も見られた。2009 年の営巣では 3 個の卵が確認され、そのうち 2 個が孵化して、雛が成長する様子を観察できた。

巣箱出入口を監視するカメラは、フクロウの雛の巣立ちの一瞬もとらえていた。しかし、毎年フクロウが営巣するわけではなく、ここ数年はムササビに気に入られて、昼間に爆睡する姿を何度も観察している。